



## 2023年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月13日

上場会社名 株式会社Waqoo 上場取引所 東  
 コード番号 4937 URL https://waqoo.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 裕基  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 近藤 成志 (TEL) 03-6805-4600  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年9月期第1四半期の連結業績(2022年10月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第1四半期	489	—	79	—	83	—	67	—
2022年9月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年9月期第1四半期 67百万円(—%) 2022年9月期第1四半期 ー百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第1四半期	22.61	22.38
2022年9月期第1四半期	—	—

(注) 当社は、2022年9月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、2022年9月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2023年9月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第1四半期	1,562	810	51.9
2022年9月期	1,563	742	47.5

(参考) 自己資本 2023年9月期第1四半期 810百万円 2022年9月期 742百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年9月期	—	—	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	935	—	121	—	143	—	117	—	39.14
通期	1,791	△34.4	115	—	149	—	122	—	40.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年9月期1Q	3,006,178株	2022年9月期	3,006,178株
② 期末自己株式数	2023年9月期1Q	一株	2022年9月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年9月期1Q	3,006,178株	2022年9月期1Q	3,001,178株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性がございます。なお、上記業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社グループは、前連結会計年度の第4四半期より連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度との比較分析は実施しておりません。

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は新型コロナウイルス感染症対策の行動規制緩和など、経済活動の正常化に向けた動きがみられ、景気の持ち直し基調が続いております。一方で、世界的な資材・エネルギー価格の高騰に加え、急激な円安の進行及び、不安定な海外情勢の継続によって、国内外での経済の見通しは依然として予断を許さない状況が続いており、ひいては物価上昇や実質賃金の低迷による個人消費への影響にも、引き続き注視していく必要があります。

当社グループの主要事業である化粧品・医薬品のBtoC-EC市場の規模におきましては、個人消費の回復に合わせ堅調に推移しているものの（経済産業省2022年8月12日公表「電子商取引に関する市場調査」）、様々な企業の市場参入や顧客獲得単価の高騰等により、引き続き、激しい競争が繰り広げられております。

このような状況の中、当社グループの取り組みとしては、引き続き、新規顧客獲得競争の激化の影響を受け、新規顧客の獲得単価の高騰が見込まれることより広告宣伝費を抑制する一方、前事業年度より開始した医療クリニック等に向けた業務支援サービスの拡大に向けた取り組みを推進してまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は489,882千円、営業利益79,434千円、経常利益83,906千円、親会社株主に帰属する四半期純利益67,981千円となりました。

セグメントの概況は、次のとおりであります。

#### (D2C事業)

D2C事業につきましては、引き続き、新規顧客の獲得単価の高騰により広告宣伝費を抑制したことに加え、HADA NATUREブランドの主力商品であるクレンジングにおける既存顧客の継続率が当初想定よりも上回って推移いたしました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は477,577千円、セグメント利益は187,001千円となりました。

#### (メディカルサポート事業)

メディカルサポート事業につきましては、医療クリニックに向けた広告制作サービスといった業務支援サービスを推進した他、SBCメディカルグループと当社の双方の強みを活かした「血液由来加工・脂肪由来幹細胞加工」の営業の受託サービス事業を展開し、提携医療機関の拡大に努めてまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は12,304千円、セグメント利益は3,312千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,345,015千円となり、前連結会計年度末に比べ1,486千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金の増加181,608千円、売掛金の減少106,291千円、商品の減少65,166千円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は217,961千円となり、前連結会計年度末に比べ1,671千円の減少となりました。これは主に、減価償却による減少1,571千円によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は526,825千円となり、前連結会計年度末に比べ28,152千円の減少となりました。これは主に、買掛金の増加17,358千円、1年内返済予定の長期借入金の減少13,311千円、未払金の減少25,315千円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は225,637千円となり、前連結会計年度末に比べ40,014千円の減少となりました。これは、長期借入金の減少によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は810,514千円となり、前連結会計年度末に比べ67,980千円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益67,981千円を計上した結果、利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、2022年11月18日付の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	906,224	1,087,832
売掛金	246,946	140,654
商品	137,944	72,778
原材料及び貯蔵品	13,365	11,378
その他	39,047	32,371
流動資産合計	1,343,528	1,345,015
固定資産		
有形固定資産	497	441
無形固定資産	13,826	12,310
投資その他の資産		
長期貸付金	200,000	200,000
その他	5,310	5,210
投資その他の資産合計	205,310	205,210
固定資産合計	219,633	217,961
資産合計	1,563,162	1,562,977
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	9,146	26,505
短期借入金	170,000	170,000
1年内返済予定の長期借入金	209,987	196,676
未払金	76,978	51,662
未払法人税等	32,247	19,237
その他	56,618	62,743
流動負債合計	554,977	526,825
固定負債		
長期借入金	265,651	225,637
固定負債合計	265,651	225,637
負債合計	820,628	752,462

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	572,064	572,064
資本剰余金	564,064	564,064
利益剰余金	△393,652	△325,670
株主資本合計	742,476	810,458
新株予約権	57	56
純資産合計	742,533	810,514
負債純資産合計	1,563,162	1,562,977

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
売上高	489,882
売上原価	131,154
売上総利益	358,727
販売費及び一般管理費	279,292
営業利益	79,434
営業外収益	
受取利息	393
償却債権取立益	5,100
雑収入	125
営業外収益合計	5,618
営業外費用	
支払利息	874
租税公課	271
営業外費用合計	1,146
経常利益	83,906
税金等調整前四半期純利益	83,906
法人税、住民税及び事業税	15,925
法人税等合計	15,925
四半期純利益	67,981
親会社株主に帰属する四半期純利益	67,981

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	67,981
四半期包括利益	67,981
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	67,981

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(資本金及び資本準備金の額の減少(「その他資本剰余金」の増加))

当社は、2022年11月25日開催の取締役会において、2022年12月23日開催の第17期定時株主総会に資本金及び資本準備金の額の減少について付議することを決議し、同定時株主総会で承認可決されました。

## 1. 資本金の額及び資本準備金の額の減少の目的

資本金及び資本準備金の額を減少し、その減少額を「その他資本剰余金」へ振り替えることで、今後の当社の資本政策の柔軟性、機動性を向上させることを目的とするものであります。

## 2. 資本金の額の減少の内容

会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金を減少し、その他資本剰余金に振り替えるものであります。

## (1) 減少すべき資本金の額

資本金の額572,064千円のうち、522,064千円を減少し、50,000千円とします。

## (2) 資本金の額の減少の方法

会社法第447条第1項の規定に基づき、資本金の額の減少を上記のとおりに行った上で、減少する資本金の額全額をその他資本剰余金に振り替えます。

## 3. 資本準備金の額の減少の内容

## (1) 減少すべき資本準備金の額

資本準備金の額564,064千円のうち、514,064千円を減少し、50,000千円とします。

## (2) 資本準備金の額の減少の方法

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金の額の減少を上記のとおりに行った上で、減少する資本準備金の額全額をその他資本剰余金に振り替えます。

## 4. 資本金及び資本準備金の額の減少の日程(予定)

(1)	取締役会決議日	2022年11月25日
(2)	株主総会決議日	2022年12月23日
(3)	債権者異議申述公告日	2023年1月16日
(4)	債権者異議申述最終期日	2023年2月20日(予定)
(5)	効力発生日	2023年2月21日(予定)

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

当第1四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	合計
	D2C事業	メディカル サポート事業	計		
売上高				—	
通販	456,904	—	456,904	—	456,904
その他	20,672	12,304	32,977	—	32,977
顧客との契約から生じる収益	477,577	12,304	489,882	—	489,882
外部顧客への売上高	477,577	12,304	489,882	—	489,882
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	477,577	12,304	489,882	—	489,882
セグメント利益	187,001	3,312	190,313	△110,879	79,434

(注) 1. セグメント利益の調整額△110,879千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。